



## 患者の不安に寄り添う

第 1 診療支援部 部長 ひらた あきよし 平田 昭美

コロナ禍でさまざまな職種、業態が変化を余儀なくされています。

対コロナ以外の変化も目まぐるしく、今年 4 月に施行された「診療用放射線の安全管理に係る医療法施行規則改正」もその一つです。法律で定められた装置（CT、血管造影装置など）の検査を受ける患者さんに以下のことを説明し、同意を得た上で検査を実施するというものです。

- 放射線の人体に対する影響
- 検査のリスクよりも得られるメリットが大きいこと
- 被ばく低減の最適化の努力をしたうえで検査していること



第 1 診療支援部 部長 ひらた あきよし 平田 昭美（前列中央）  
中央放射線科のスタッフと

説明は医師がしなければならず、現状の忙しさに加え、医師の負担、診察時間の延長は明らかでした。どうすればわかりやすく、短時間に伝えられるかなどスタッフで頭を悩ませました。

わかりやすいパンフレットを作成したり、検査説明後に同意を得られたことがわかるよう、ボタン一つでカルテに紐付けるシステムも構築されました。これは他部署の協力によって実現したことです。患者さんの不安を少しでも軽減できれば幸いです。

検査の前後、被ばくについて聞かれることがかなり増えていると感じます。被ばくに関する不安を解消し、少しでも安心して検査が受けられるよう心がけていきたいと思えます。これが放射線技師として患者の不安に寄り添うことであり、画像診断力の向上とともに放射線技師の大切な任務と考えています。

# 形成外科の診療

～患者も、スタッフも、私も、笑顔になるように～

形成外科 医長 うめはらこうじ 梅原康次

## 迷ったら、とりあえず形成外科へ！

「形成外科って何よ～」と言われ続けて、2年半が経ちました。「皮膚科のような、外科のような。整形っぽいこともしているし、まぶたや耳、鼻、陰部も診ている。もう、ワケ分からん！」  
医師も看護師も、事務員も大混乱しました（汗）。  
名称も「整形外科」と似ていますので、今もなお、間違っ受てをする患者さんが後を絶ちません・・・。



臓器別で考えますと、ややこしくなります。

表面に近い領域を扱うため、『体表外科』とも言われます。

頭のとっぺんから足の先まで、部位は問いません。できものや傷、変形など、外から見て分かる異常があれば、とりあえず、形成外科へお越しください。

## 【扱う疾患（主なもの）】

- 腫瘍：皮膚・皮下腫瘍、皮膚がん、一部の軟部腫瘍・骨腫瘍
- 外傷：挫創、切創、熱傷、顔面骨折、じよくそう褥瘡、えそ壊疽、さまざまな皮膚欠損創
- 変形：はんこん癬痕、癬痕拘縮、ケロイド、耳垂裂、女性化乳房
- その他：がんけん眼瞼下垂、わきが、陥入爪



## 仕事の流儀

外来業務は神経を使うため、やはり途中休憩が必要です。しかし、お茶やせんべいでは、どうも休まりません。スイカやマンゴーをカットしたり、梨やりんごをむいたりすると、一瞬で疲れが吹き飛びます。私の仕事道具は、「メス」と「包丁」なのです。  
本気で喜ぶスタッフの顔も、仕事のエネルギー源となっています。

## 楽しく働ける職場環境

自分もスタッフも、やりがいを持って、楽しく、前向きに働けるような職場環境をつくることは楽しい作業であり、そうすることが、患者本位の医療を提供するための基礎になると信じています。



形成外科のスタッフと（平成30年撮影）

## 田中内科クリニックの紹介

高岡市早川にある田中内科クリニックは、令和1年11月に医療法人真生会のグループとなりました。標榜科は、内科、消化器内科、循環器内科、呼吸器内科です。

院長の北澤勉医師（内科・呼吸器内科）にクリニックの診療体制や近況を聞きました。

### ○診療体制・特色

当クリニックには常勤医師が2名います。私と、もう1名が前院長の松村孝之医師（消化器内科）です。月曜日から土曜日まで、午前中に内視鏡検査枠を1日5枠設けています。経鼻内視鏡検査は年間1000件です。

### ○地域連携

歩いて5分の場所に厚生連高岡病院があります。検査や救急の体制が充実していますので、クリニックで治療が難しい方など必要に応じて紹介させていただきます。また、高岡市医師会の「れんけいネット」などを活用して地域の医療機関と連携しています

### ○クリニックの近況

みなさんご承知のとおり、新型コロナウイルスの流行が続いており、特に内視鏡検査の際は換気を徹底するなど感染対策に努めています。呼吸器疾患（ぜんそく、COPDなど）でお困りの方もお気軽にご相談ください。



左から3番目が北澤勉院長

# 薬剤科の紹介

薬剤科 科長 ごとうあつし 後藤敦史

## 薬剤科のスタッフ

7名の薬剤師が在籍しています（常勤6名、パート1名）。認定薬剤師は、がん薬物療法認定薬剤師1名と緩和薬物療法認定薬剤師2名です。がんや緩和ケアの分野で多職種と連携し、力を発揮しています。

## 認定薬剤師の役割

がん薬物療法認定薬剤師は医師と協同で治療計画（プロトコール）を作成し、副作用の予防策を提案します。患者さんへは抗がん剤治療の副作用を説明、症状を確認します。精神的な負担の大きい患者さんには、緩和ケア内科と連携してフォローに入ることもあります。緩和薬物療法認定薬剤師は化学療法の早期から関わります。痛みや不快な症状に対して適切な薬物療法を提案し、治療の効果や副作用を評価します。

## 病棟業務の拡充、退院後の支援

平成30年から病棟業務を拡充しました。入退院に関わるカンファレンスへの参加、持参薬の鑑別や整理、薬剤に関する問い合わせへの対応など、チーム医療の一員として薬剤師の職能を発揮しています。入院時の持参薬や処方内容を確認することで、必要性の低い薬を止めて多剤服用を見直せます。退院時の薬剤指導、他施設への情報提供も増えました。調剤薬局の薬剤師を招いて退院カンファレンスを行うこともあります。またNST（栄養サポートチーム）のメンバーとして入院早期から栄養状態や嚥下機能を評価し、適切な処方を提案しています。輸液の管理をはじめ簡易懸濁法や経腸栄養剤など退院後の療養にも関わっています。

## おわりに

病院薬剤師が主人公のドラマ「アンサング・シンデレラ」が放送されていました。「石原さとみさん演じる葵みどりのような熱い薬剤師が身近にいますか？」というアンケートに、現役薬剤師の約6割が「いる」と答えたそうです。私たちも「患者さんのために」という思いを持って関わっていきます。



薬剤科 科長 ごとうあつし 後藤敦史（後列中央）  
薬剤科のスタッフと